

Kreuzkirche Gotanda (Tokyo)

Pavel Kohout – Concert Organist, Czech Republic

オルガン：パヴェル・コホート

Iva Hlaváčková – Soprano, Czech Republic

ソプラノ：イヴァ・フラヴァーチコヴァー

Sunday 11th of June 2023, 16:00

2023年6月11日（日）16時00分

Kreuzkirche, Tokyo - Yokohama, Japan

Programm:

Johann Sebastian Bach J・S・バッハ

1685 – 1750

Praeludium in Es dur, BWV 552

前奏曲変ホ長調

Wachet auf, ruft uns die Stimme, aus den *Schübler-Chorälen* Nr. 1, BWV 645

『6つのコラール(シュープラー・コラール)』より「第1曲: 目覚めよ、と呼ぶ声あり」

(Orgel solo・オルガン・ソロ)

Arie „Ich folge dir gleichfalls“ (aus der Johannes-Passion), BWV 245

『ヨハネ受難曲』よりアリア「私も喜ばしい足取りで」

(Sopran und Orgel・ソプラノ+オルガン)

„Meine Seele erhebt den Herren“, aus den *Schübler-Chorälen* Nr. 4, BWV 648

『6つのコラール(シュープラー・コラール)』より「第4曲: わが魂は主をあがめ」

(Orgel solo・オルガン・ソロ)

(Gottfried Heinrich Stölzel G・H・シュテルツェル 1690 – 1749)

Arie „Bist du bei mir“ (aus der Oper *Diomedes*), Fassung aus dem Notenbüchlein für Anna Magdalena Bach, BWV 508

オペラ『ディオメデス』より「あなたが傍にいて下さるなら」（『アンナ・マクダレーナ・バッハのための音楽帳』による編曲）

(Sopran und Orgel・ソプラノ+オルガン)

(Johann Sebastian Bach J・S・バッハ)

„Kommst du nun, Jesu, vom Himmel herunter“, aus den *Schübler-Chorälen* Nr. 6, BWV 650

『6つのコラール(シュープラー・コラール)』より「第6曲: イエスよ、いまぞ汝御空より降り来りて」

(Orgel solo・オルガン・ソロ)

Arie „Vergnügte Ruh“, beliebte Seelenlust“ aus der gleichnamigen Kantate, BWV 170

カンタータ第170番『満ち足りた安らぎ、望まれし心の喜びよ』より同題のアリア

(Sopran und Orgel・ソプラノ+オルガン)

Fuge in Es dur, BWV 552

フーガ変ホ長調

(Orgel solo・オルガン・ソロ)

**** Pause・休憩 ****

Antonio Vivaldi A・ヴィヴァルディ

1678 – 1741

Concerto Grosso in d-Moll, op. 3, No. 11 (Orgelbearbeitung von J. S. Bach, BWV 596)
コンチェルト・グロッソ 作品3、第11番 (オルガン編曲: J・S・バッハ)

1. Allegro
2. Grave
3. Fuga
4. Largo e spiccato
5. Finale, allegro

(Orgel solo・オルガン・ソロ)

Georg Friedrich Händel G・F・ヘンデル

1685 – 1759

Arie: Künft'ger Zeiten eitler Kummer, HWV 202

アリア「来るべき日々の空しい憂いも」

Arie „Oh, had I Jubal's Lyre“ aus dem Oratorium *Joshua*, HWV 64

オラトリオ『ヨシュア』よりアリア「嗚呼、私にユバルの豎琴があれば」

(Sopran und Orgel・ソプラノ+オルガン)

Jehan Alain J・アラン

1911 – 1941

Le Jardin suspendu

『架空庭園』

(Orgel solo・オルガン・ソロ)

Petr Eben P・エベン

1929 – 2007

„Píseň Ruth“ (Song of Ruth)

「ルツの歌」

(Sopran und Orgel・ソプラノ+オルガン)

Jehan Alain J・アラン

Litanie

『リタニー』

Josef Haydn J・ハイドン

1732 – 1809

Arie „Nun beut die Flur“ aus dem Oratorium *Die Schöpfung*

オラトリオ『天地創造』よりアリア「いまや野の新緑が」

(ソプラノ+オルガン)

パヴェル・コホート

1976年生まれ。フﾟラハの音楽院及び芸術アカデミー音楽学部を卒業後、阿姆斯特ダムで勉強を続け、歴史的オルガンの研究と演奏で著名な専門家シヅック・ヴァン・オールドメルセンに師事。ヨーロッパで数々のコンクールで第一位を受賞し、2000年には、東京武蔵野市で4年に一度開かれる世界で最大の国際オルガン・コンクールで、金賞とJ・S・バッハ賞を獲得。現在、ヨーロッパの新世代のオルガニストを代表する一人。研究も同時に続け、フﾟラハ芸術アカデミーにて、南ドイツ・バロック・オルガン曲の演奏史についての論文で博士号を取得。ヤナーチェク国立音楽大学（ブルノ）オルガン科准教授。

ソリストとしてのみならず、数々のオーケストラとも共演し、その活躍の舞台は、ヨーロッパ、ロシア、イスラエル、ニュージーランド、シリア、日本、香港、台湾、アメリカと世界各地にまたがっている。中でも、2008年、オーストラリアの二度目の訪問時にオーケストラ・ヴィクトリアと行った、アレクサンドル・ギルマンの「オルガンと管弦楽のための交響曲第1番」の演奏は、好評を博した。演奏家としてだけでなく、チェコ国営ラジオ放送とのオルガン講習会の企画など、教育・啓蒙の面でも積極的に活動。ソリストとして発表したCDに、「フﾟラハ・バロックの黄金時代 (Prague-L'âge d'or baroque)」、「ホムヘミアの黄金精神 (Anima Aurea Bohemiae)」、「天才J・S・バッハ (Genius Johann Sebastian Bach)」などがあ

イヴァ・フラヴァーチコヴァー

チェコのソプラノ歌手。マルーケタ・シュルートコヴァーの指導のもとで歌を学んだあと、パルドゥビツェ音楽院にてハナ・メトコヴァーに師事し、2020年に優秀な成績で卒業した。在学中にフィンランドに留学し、オーボ・アカデミー大学で半年間勉強しながら、主に20世紀の作曲家の音楽を演奏するVida Ensemble（ヴィーダ・アンサンブル）という室内アンサンブルのメンバーになった。

またイタリアのテノール歌手アントニオ・カラングェロやカテジナ・クネジーコヴァーなどの声楽マスタークラスにも定期的に参加している。在学中にいくつかのオペラプロジェクトに関わり、例えばプッチーニのオペラ『修道女アンジェリカ』のジェノヴィエツファ役、モーツァルトの『魔笛』のパパゲーナ役、あるいは『フィガロの結婚』のスザンナ役などを演じた。現在は室内楽のコンサートや後進の指導に力を注いでいる。声楽・器楽アンサンブルReBelCanto（レベルカント）の常任メンバーとして、毎年チェコとドイツでのツアーに参加するほか、チェコ国内外の多くの音楽祭でソロコンサート活動を展開している。